

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・Ⅰ アーカイヴ型アートを通して歴史的資料の蒐集とその権力性について論じた評論。記述問題の設問数は4問。解答欄はすべて3.5cm幅。
- ・Ⅱ 第二次世界大戦中の東京で、川を流されていく空襲で亡くなった人の遺体のなかに、友人かもしれない一人の学生の遺体を見つけた主人公が様々に思いを馳せる小説。設問数は4問。表現効果を問う形の出題はなかったが、それに類する設問が出題された。解答欄の大きさは設問ごとに違いが見られた。

<本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	『想起のかたち——記憶アートの歴史意識』 (香川檀)	「彩られた日々」 (吉村昭)
頻出度合 ・ 的中等	なし	なし
分量 前年比較	減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加	減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加
難易 前年比較	易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化	易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅰ	評論	問一	記述式	標準	傍線部前後の内容をもとに、アーカイヴが「権力の装置」となる理由を説明する。(3.5cm幅) 収蔵物という「主体」が選別や定義づけの「客体」に変えられてしまうことを説明する。(3.5cm幅) 一般的な蒐集と比較しながら、アートにおける蒐集の意味を説明する。(3.5cm幅) 本文の趣旨を踏まえ、「静寂の前に」という作品名に込められた意味を説明する。(3.5cm幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	
Ⅱ	小説	問一	記述式	標準	川を流れる焼死体を指す表現が「かれら」「それら」と使い分けられている理由を説明する。(3.9cm幅) 主人公たちが動揺した理由を、傍線部の直前直後の内容を踏まえつつ説明する。(2.8cm幅) 「鵜飼」の言動について述べた部分を踏まえ、彼が「薄笑い」した理由を説明する。(2.8cm幅) 本文全体を踏まえ、「十七歳」という年齢についての主人公の考えを説明する。(3.9cm幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・Ⅰの評論では、意味段落の論旨を正確に把握した上で全体の主題を捉えられるよう、文脈を的確に読み解き、論理的に正確な説明をする練習を積み重ねたい。念のため、漢字の書き取りも練習しておこう。
- ・Ⅱの小説では、人物の心情を叙述に基づいて正確に読み取り、わかりやすく表現する練習を着実に積み重ねる必要がある、そのためにも語彙を豊かなものにしておきたい。表現効果に関わる設問、作品の鍵となるものに関わる設問についても、解答の基本的な構成を習得しておきたい。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・文学部の入試問題として、紀行文が出題されるのは過去十年で二度め。なお、もう一題は2023年度(宗久『都のつと』)。
- ・設問構成はほぼ例年どおり。例年の傾向だった短語句の意味を問う設問は、前年度にひき続き今年度もなかった。
- ・例年よく出題される和歌の設問があった。今年度は現代語訳二題と内容説明一題だった。
- ・例年よく出題される文章全体の主旨をふまえるような内容説明はなかった。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	『東関紀行』 (未詳)
頻出度合 ・的中等	作品は稀。的中なし。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約660字 (昨年1100字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	紀行文	問一	記述式	やや易	現代語訳。傍線二箇所。訳出条件の指示なし。着眼点となる重要語句等は、「夜もすがら」「いぬ(寝ぬ)」「なべて」「白妙」。また、「いねられ」の助動詞「られ(可能)」、「白妙に」の助動詞「に(断定)」にも注意。
		問二	記述式	標準	内容説明。和歌に詠まれた主旨を説明する。和歌の前二行の内容をふまえる。
		問三	記述式	標準	現代語訳。和歌を掛詞に留意して訳出する。掛詞は「荒し」と「荒磯」の「荒」。他に重要語句等はなし。
		問四	記述式	やや難	内容説明。傍線部前数行で言及された二人の人物の性向と行為を押さえて具体的に説明する。
		問五	記述式	標準	現代語訳。和歌中の言葉が含意するものを、本文中の内容をふまえて訳出する。和歌中に重要語句等はなし。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行っておくこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。
- ・例年の傾向から、和歌について、修辞の指摘や説明問題をも意識した解釈の演習も必要である。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題・漢文 1題

試験時間

120分

前漢の劉向が編纂した逸話集である『説苑』からの出題。命を救ってくれた人物をその人とは知らずに、主君の命令で殺しそうになったが、直前に恩人であると分かって、自分の命を捨ててその恩人を救った人物の話。内容は読み取りやすい。本文の字数が昨年よりやや増加した。設問数が昨年と同じく5、枝問が1つあるので、解答数は6。現代語訳の問題が1問、理由説明の問題が4問、書き下し文の問題が1問である。昨年と比較すると、現代語訳の問題が減少し、説明問題が増加した。書き下し文の間では、昨年度「現代仮名遣いでもよい」というただし書きがあったが、本年度はない。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	前漢・劉向『説苑』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) (昨年) 133字→(今年)183字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	史伝	問一	記述式	やや易	書き下し文の問題。文の構造と文意を考えて訓読する。
		問二	記述式	やや易	理由説明の問題。傍線部の直後の対話の内容に着目してまとめる。
		問三	記述式	標準	理由説明の問題。傍線部直前の一文の内容に着目してまとめる。
		問四	記述式	やや難	現代語訳の問題。反語「何ぞ〜んや」に着目して現代語訳する。
		問五	記述式	標準	理由説明の問題。文脈から「餓人」の心情を読み取るのが難しい。 理由説明の問題。本文の話の筋を正しく読み取り、「餓人」の「恩返し」の行動であることを説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語句・慣用句や基本句形の知識に習熟し、比喻や具体例の提示などの修辞法にも慣れておく必要がある。本文を単に直訳するだけでなく、論の展開や筆者の意図を考えながら読む読解力が必要なので、問題集などを利用して読解の訓練を積んでおくこと。中国の歴史、思想、文化に関する知識も身につけておく必要がある。